

# 30万国鉄労働者の怒りのゼネスト実現に向け、 動労千葉1200は最先頭で決起しよう

## 9月10日定期大会の 圧倒的成功をかちとろう

組合員のみなさん、監理委の「7・26答申」によって、わずか一年半後には十数万人の国鉄労働者が国鉄から放り出されようとしている。われわれは一人の首切りも許してはならない。そのために第十回定期大会において、組織の存亡をかけて闘いぬく断固たる方針を確立し、総決起をかちとろうではないか。

中曾根打倒で「分割・民営化」阻止！  
「81・3」を上回る闘いに決起しよう

監理委の「分割・民営化案」は、「六二年四月一日時点で十八万三千人体制」とし、同時に「九万三千人の余剰人員」が発生するとしており、「二万人の希望退職」「四万一千人の再就職あっせん」をはじめ、十万人以上の国鉄労働者の首を切ろうとしている。

具体的には、十一月に「雇用安定協約」を破棄し、「61・11十八万三千人体制ダイ改」を強行し、八七年四月一日の「分割・民営化」を狙っている。まさに、この一年半の攻防如何に国鉄労働者の未来がかかっており、答申粉碎にむけ全力で闘いぬかなければならない。

われわれは、当面、「活用策」の強行、「三本柱」の強要、「希望退職」「四万一千人の旧国鉄要員」の選別を許さない闘いを貫徹し、さらには「職場規律」を口実に「処分」を乱発した既得権はく奪し労働運動破壊攻撃と徹底的に対決し、決定的段階では動労千葉独自でも「81・3スト」を上回る闘いに決起する決意と体制をうち固めようではないか。

自民党に命乞いする革マルを打倒し、  
今こそ怒りをときはなつて総決起しよう

動労「本部」革マル・松崎は、動労旭川地本大会において「情勢が厳しい」理由を「総評労働運動の中に国鉄解体策動に対するたたかいの基盤がない」「国鉄労働者と国民との間で合意形成ができていない」などと、総評や労働者・人民に責任転嫁したうえで、「後退局面の闘いは、かつての高揚局面と同じような戦術を行使する訳にはいかない」とあいさつした。そして、「ストをやれば首を切られる」だから「合意形成にむけた逆包围網づくり」出向やセールスセンターなどの活用策で骨身を削ることが生き残る道」と断言した。

革マル・松崎は「より多くの仲間たちに支持していただくために、自ら骨身を削るのは当然の前

提」といいなし、「三本柱クリア」路線によって八月一日現在で出向二三一六名、退職前提休職八四六名、復職前提休職五五七名という、実に三千七百名の組合員を職場から追い出したのだ。革マル・松崎は「この人たちの未来に責任をもて」を唯一、最大の要求として、自民党、当局にひれ伏している。

第十回定期大会に結集し  
万全の闘争方針と体制をうち固めよう

革マル・松崎が中曾根、国鉄当局に屈服し、忠誠を誓い、国鉄や動労千葉組合員の首切りを要求することによって、何人かの動労組合員の雇用は守れるかもしれない。

しかし、当局は十数万人の国鉄労働者の首を切ろうとしているのだ。その中には、まだ出向や活用策に行かない三万人の動労組合員も含まれているのである。

革マル・松崎は、国労や動労千葉の組合員に対してと同様に「情勢がわかっていないのだから首を切られて当然」というのだろうか。

われわれは、労働者階級の主体的決起と闘いの貫徹に歴史を切り拓く無限の可能性があることに確信をもっている。

労働者は闘いの実践を通してのみ向上するのであり、闘わない労働者は腐敗・墮落するのだ。

動労千葉は、十数年来の闘いで培ったすべての力を発揮し、千二百一丸となって決起する。

全組合員の力で第十回定期大会の圧倒的成功をかちとろう。

**9月10日定期大会**  
とき・9月9日13時開始→11日まで  
ところ・匝瑳郡野栄町野手  
国民宿舎のさか望洋荘  
（電話）〇四七九六七一三五一一（代）  
総武本線・八日市場駅下車  
送迎バスあり

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！